



研修レポート

『クラウドファンディングを活用したまちづくり』

～福井県鯖江市～

結城市都市建設部都市計画課 課長補佐 野村 正美

はじめに

平成29年7月14日、第45回まちづくり拝見研修会に参加しました。福井県鯖江市の「クラウドファンディングを活用したまちづくり」について紹介します。

鯖江市の概要

鯖江市は福井県のほぼ中央に位置し、北は福井市、南は越前市に隣接する人口約7万人のまちです。眼鏡、繊維、漆器を三大地場産業とするものづくりが昔から盛んなまちで、特に眼鏡フレーム国内製造シェア約95%を誇る産業都市です。また、福井県内で唯一人口が増え続けている都市でもあります。

鯖江市の概要

鯖江までの時間	所要時間
京都から (JR快車)	1時間21分
大塚から (JR快車)	1時間49分
名古屋から (JR快車)	1時間56分
東京から (JR快車)	3時間17分
小松-東京間空港利用 (小松-福井線/JR快車)	2時間25分

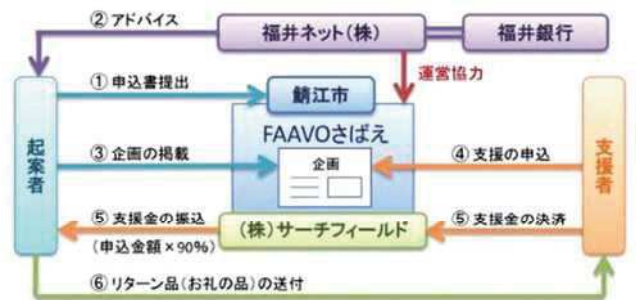
【人口】69,152人 (H29.5.1時点) *福井県内で唯一人口が増え続けている。
 【世帯】23,745世帯 (H29.5.1時点)
 【面積】84.59km² (県内で高浜町に次いで2番目に狭い)
 【人口密度】816.6人/km² (県下ダントツNo.1) ex 福井市(福井県寄地) 487.3人/km²
 【産業】眼鏡、繊維、漆器を中心としたものづくりのまち
 【歴史】近松門左衛門が幼少期を過ごしたまち
 関部登雄(越前国鯖江藩主、徳川家斉の側近、老中)が生まれ育ったまち
 幕末京都で、井伊の赤鬼(井伊直弼)⇔「関部の青鬼」(関部登雄)と
 言われて恐れられた。

また、ものづくりのまちの技術活用を目的に多くの大学や研究機関と連携協定を結び各事業の発展を目指しています。

クラウドファンディング「FAAVOさばえ」について

平成26年にスタートしたクラウドファンディングが「FAAVOさばえ」(行政が主体となったのは全国初)です。鯖江市のクラウドファンディングは、市の財源確保、市民提案やまちづくりに市民が積極的に参加できるように、民間企業の新製品の開発援助のため等、資金面から市民の夢の実現を応援する目的で始められました。

起案者にとって、運営を行政が担当し、運営協力を銀行がすることにより、安心して事業提案できる利点があります。



対象団体は、市内拠点の個人、団体、事業所、市とし、対象事業は、地域活性化、技術開発、資金活用20万円以上などです。

事業の流れは、企画申込→アドバイス→「FAAVOさばえ」に掲載→支援の申込→支援金の決済・振込→事業実施→リターン品の送付となります。

支援金が目標額に達しない場合は、事務局が返金します。これまでに支援金総額29,599,000円、27事業が実施されています。今のところ、全ての提案が事業化(相談時点で断念したものは除く)されているそうです。

これまでの実績としては、「市立動物園を守っていきたい」「手つなぎバンドでこどもたちを交通事故から守りたい」「92歳の手書きレシピを料理帳に!こどもたちにつなげたい!」「市民の手でメガネストリートを盛りあげたい」など鯖江市の活性化に寄与する事業です。

ここでは、代表的な例として市立動物園を紹介します。西山公園にある市立動物園は日本一小さい動物園。入館料は無料の市民の憩いの場となっています。担当部署が

鯖江市の取組み

市外に向けて、鯖江市の主要産業である眼鏡のPRをするために、アイドルとコラボしたり、著名人にプレゼントしたりメディアを積極的に活用し、情報を発信している。

また、市内においては、「学生連携のまちづくり」として鯖江市役所JK課(女子高生課)、「市民主役のまちづくり」として、鯖江市役所OC課(おばちゃん課)を発足して様々な視点から、市民参加の事業を展開している。

学生連携のまちづくり・市民主役のまちづくり

- 鯖江市役所JK課(女子高生課)
 - 平成26年4月発足
 - 大人版地域活性化プランコンテストの提案を具現化
- 鯖江市OC課(おばちゃん課)
 - 平成26年7月発足
 - 市内トイレのサイン整備を提案
 - 婚活イベントを開催

浜島書店 高校社会科資料集
 『ニュービジョン現社』(2016年度版)に「JK課」掲載
 全国の高校を対象に5万部発行

数年来要望していた「動物コーナーの設置」,「職員のユニフォーム作成」を「FAAVOさばえ」により実現しました。

第1弾で集まった金額は目標の2倍以上で、予定以上の事業が達成されました。

主な事業とその後 FAAVOさばえ

① **日本一小さい動物園！みんなに愛される動物園を守っていききたい！**

	第1弾 募集期間 平成27年3月28日～6月25日 目標金額 1,000,000円 集まった金額 2,304,000円 (230%) (支援者数 196人)
	第2弾 募集期間 平成28年4月15日～6月6日 目標金額 1,000,000円 集まった金額 1,362,000円 (136%) (支援者数 131人)
	第3弾 募集期間 平成29年4月26日～6月29日 目標金額 1,000,000円 集まった金額 1,219,000円 (121%) (支援者数 102人)

目的：新レッサーパンダ舎に動物紹介コーナー設置、職員のユニフォーム作成
 第2弾 子供たちのための教材、軽トラックのペイント
 第3弾 来園者の休憩スペース、ガチャガチャ、オリジナルトートバッグ

30

リターン品には、レッサーパンダの命名権、職員と同じユニフォーム等を送りました。まちの小さな動物園をみんなで守るといった市民の思いが、目標を大きく上回る結果となりました。

《ユニークなお礼品を設定》 オリジナル掛時計 職員と同じデザインのTシャツ、キャップ コースター・ハンガー

レッサーパンダの赤ちゃん命名権 

吠狛(左)・モッチー(右) 

《支援者からも大好評》 レッサーパンダの赤ちゃん命名権 

レッサーパンダの飼育体験 

結果：①動物紹介コーナー設置+ロールスクリーン設置
 Tシャツ・キャップ+ジャンパー作成
 動物たちの食事代
 ②軽トラックのペイント、写真撮影スポット
 ③休憩スペース、ガチャガチャ

目標金額を上回る支援金が集まり、当初の目的以上のことができた！

また、新しいチャレンジとして、ふるさと納税に特化した「F×Gさばえ」を始めました。第1弾として、メガネストリートの歩道修繕を実施中です。市の顔である鯖江駅からメガネミュージアムまで続く道路の修繕は、厳しい財源の中で、今回「F×Gさばえ」を活用することで実現しました。ただ修繕を行うだけでなく、「隠れメガネ」を散りばめることで「歩くだけでメガネを感じられるメガネストリートに」との鯖江らしい「おもてなし」をするという思いが詰まっています。若手職員の提案で「メガネ型ベンチ」「メガネ型鉄蓋」「メガネ型植樹柵」「メガネ付車止め」などアイデアが溢れています。リターン品は支援者プレートを下道に設置しています。

平成29年3月末完成予定 (上記除機の南側歩道を整備)			平成29年5月末完成予定		
					
地下道階段 ペイント	めがね型鉄蓋(上水)	緑地ペイント	タペストリー設置	タペストリー設置	タペストリー設置
支援者プレート設置(地下道内)	めがね型鉄蓋(電気)	めがね型ベンチ	※平成29年度事業で整備予定箇所	※平成29年度事業で整備予定箇所	※平成29年度事業で整備予定箇所
支援者プレート設置(地下道内)	めがね型鉄蓋(電気)	めがね型ベンチ	①上記路線北側(めがね型ベンチ&植樹柵等)	②駐車場整備(駅東口)	③駅前修景整備
めがね付車止め	めがね型鉄蓋(下水)	めがね型植樹柵	FAAVO&FxGで整備資金を公募(結果)	募集期間 平成28年10月21日～12月31日	支援金額 10,858千円
めがね付車止め	めがね型鉄蓋(下水)	めがね型植樹柵	支援者数 240人	FAAVOさばえ	FxGさばえ
めがね付車止め	めがね型鉄蓋(下水)	めがね型植樹柵	クラウドファンディング	ふるさと納税	
めがね付車止め	めがね型鉄蓋(下水)	めがね型植樹柵	支援金額 3,158千円	支援金額 7,700千円	
めがね付車止め	めがね型鉄蓋(下水)	めがね型植樹柵	支援者数 148人	支援者数 92人	

また、官民協働として、「FAAVOさばえ」を活用してタペストリーを製作、街路灯に設置し、メガネストリートを盛り上げています。こちらのリターン品は、メガネストリートに支援者の手形タイルを設置しています。子供の記念に手形をとった支援者が多かったそうです。

そこで…歩道の整備を市が！タペストリーやイベントを民間が！

「メガネの聖地」さばえ！を
 メガネストリートでワクワクするまちに大改造！

- 第一弾 「メガネストリート」整備計画 平成28年度中
 - ・鯖江駅からめがね会館までの歩道整備(南側)
 - ・タペストリーの製作・鯖江駅前駐車場の整備
- 第二弾 「メガネストリート」整備計画 平成29年度中
 - ・歩行者天国でのメガネフェスやイベントの開催(6/10・11)
 - ・鯖江駅からめがね会館までの歩道整備(北側)
 - ・鯖江駅からサードムまでの歩道整備・鯖江駅東駐車場の整備
 - ・「めがねのまち さばえ」に標記統一

行政でやりにくいことは民間が！民間ではできないことは行政が！
 仕事がスムーズ。モデルケースとして色んな団体等が視察に訪れる。

41

行政でやりにくいことを民間が、民間で出来ないことを行政が行うモデルとして、多くの団体が視察に訪れているそうです。

■おわりに

今回の研修を通じて感じたのは、まちづくりに取り組む行政側の熱意と、市民の「自分のまちを良くしたい」という熱意が一つになって、まちを停滞させずに、活性化していることでした。こういった事業を契機に、市民が自分のまちに愛着が湧いてきて、まちづくりに積極的な参加を促す効果に繋がるものと感じました。

今回、鯖江市のまちづくりについての取組みを学ぶことができ、小さな自治体でも魅力あるまちづくりができることが分かり、大変勉強になりました。今後の業務の参考にすると共に、鯖江市の動向にも注視していきたいと思えます。